

	シーズ名	都市文化政策・アートプロジェクト論
	氏名・所属・役職	吉田隆之・創造都市研究科・准教授
<p><概要></p> <p>主な研究内容は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術祭と地域活性化 2. 文化資源を活用した都市・地域再生 3. 文化政策の評価 4. 文化政策と法制度(文化法、文化条例、アーツカウンシル等) 5. 芸術文化と表現の自由 6. 芸術文化と公共性 7. 都市文化政策・アートプロジェクト論それぞれの理論・体系の構築 <p><アピールポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際展あいちトリエンナーレ 2010 に県職員として、それ以降もコーディネーターとして関わり豊富な実務経験を有する ・現場でフィールド調査を重ね、虫の目で個別の地域・プロジェクトごとに分析・考察した上で、鳥の目で全体を俯瞰的に分析・考察を行う。ぶれない姿勢で研究に取り組む。 ・現代アートを主な内容とする芸術祭、いわゆる国際展が内外で開催され、流行しているが、主要な海外の国際展と国内の国際展のほとんどの動向をフォローしている。 ・全国各地で、アートと地域活性化などをテーマに幾多の講演を重ねている。 <p><利用・用途・応用分野></p> <p>自治体・国・民間を問わず文化政策のビジョン作成と文化条例を始めとした具体的な政策立案。</p> <p><関連する知的財産権></p> <p>なし</p> <p><関連するURL></p> <p>なし</p> <p><他分野に求めるニーズ></p> <p>文化政策に関する研究は、社会科学(法学、行政学、経済学、経営学)、人文科学(美学、美術史)など様々な学問分野からアプローチがされており、学内外を問わず、領域横断的な研究の連携を進め、芸術文化が社会の横軸として機能するよう努めたい。</p>		
キーワード	都市文化政策、文化条例、文化法、国際展、芸術祭、アートプロジェクト論	

	シーズ名	イノベーション、技術経営、大学発ベンチャー、戦略的提携
	氏名・所属・役職	創造都市研究科 小関珠音
<p><概要></p> <p>先端科学技術を基盤とするイノベーション創出を目指した技術経営に関する研究に従事している。</p> <p>(1) 大学発ベンチャーとイノベーション 大学発ベンチャーにおいては、創業当初に経営に必要な人材や能力がすべて整っているとは限らない。そこで起業時点から、大学研究者の関与の方法や調整、非連続的な成長・拡大に伴うガバナンス設計・調整の必要性を把握し、大学及び大学研究者の関与の在り方について、あらかじめ方向性を定めておく必要がある。</p> <p>(2) 戦略的連携とイノベーション 科学技術の創出から実用化までのプロセスにおいては、産学の各アクターの効果的な連携が必要となる。例えば、有機 EL 分野においては、九州大学および山形大学より基礎発明が生まれ、産学官連携活動の連鎖によって、その科学技術が企業に移転された。大学で創出された科学技術の社会への普及と、その経済的価値の創出のための理論フレームワークが必要である。</p> <p>また、鴻海のシャープ買収に見られるように、企業間連携においては、日本企業の従来からの提携パターンと比較して、大きく容容をとげている。このような戦略的提携は、新分野の市場創造、産業形成、さらには、個別企業の企業価値を向上させるためにも効果がある。</p> <p>昨今の社会的及び経営環境の変化を踏まえ、イノベーションを生み出すための戦略的連携の設計・調整の在り方について研究を行っている。</p> <p><アピールポイント></p> <p>金融等実業界での実務経験、及び大学発ベンチャー企業等3社の創業実務経験(1社は兼業申請承認)における経験的知識、既存/新規の実業界でのフィールドワーク、及び複数事例の比較研究より、これらの活動これまで明らかにされてこなかった課題を抽出している。その課題に対し、イノベーション創出プロセスの段階ごとに仮説を組み立て直し改良しながら、抽出された要素を指標化して、理論フレームワークを構築する。研究成果は、今後の研究成果活用事業における適用可能性を検討し、理論フレームワークを深化させ、次の研究につなげる。</p> <p>応用可能な社会科学の理論フレームワークの創出を目指している。</p> <p><利用・用途・応用分野></p> <p>構築された理論フレームワークは、既存/新規の大学発ベンチャーや産学連携活動における活用が見込まれる。</p> <p><関連する知的財産権></p> <p>特になし。</p> <p><関連するURL></p> <p><他分野に求めるニーズ></p>		
キーワード	イノベーション、技術経営、大学発ベンチャー、戦略的提携、有機 EL	

	シーズ名	オープンイノベーションによる健康サービス提供
	氏名・所属・役職	岩崎 安伸・都市経営研究科・教授(実務)
<p><概要></p> <p>健康増進や健康維持に対する個人的な取り組みをサポートするサービスは、典型的な人対人のサービスであり、そのために顧客の求めるニーズとそれを提供できるサービスプロバイダーを一致させることは困難であった。顧客はインターネットなどの各種情報を頼りにすることが多いが、現実的にはサービス経験者の口込みなどを信頼して、個人対個人の直接取引が行われている。</p> <p>また顧客の健康に関するニーズは、マッサージなど人体に関わるサービスから食事など個人の生活、さらには感情に関わる心理カウンセリングまで、非常に範囲が広い。そのために、一人のサービスプロバイダーだけでは顧客のニーズに対応できることは限られている。</p> <p>ここにオープンイノベーションとして、各種サービスプロバイダーの情報を提供できるアプリを用いることにより、顧客の多様なニーズに対応することができる。</p> <p><アピールポイント></p> <p>サービスを提供される前に探索することができないヒューマンサービスを、アプリから探索することができる。</p> <p>サービスプロバイダーは、アプリに自らが参加することにより、市場参入コストを下げることができる。</p> <p>顧客ニーズとそれを提供できるサービスプロバイサーを対応させられる取引業態を介在させることにより、顧客満足を得られるとともに、業界全体の取引コストを圧縮することができる。</p> <p><利用・用途・応用分野></p> <p>スポーツ選手やチームに対する競技力向上に向けたサービスや、福祉・介護領域での健康増進に必要なサポートサービスをアプリから見つけることができる。</p> <p><関連する知的財産権></p> <p>なし</p> <p><関連するURL></p> <p>https://www.aga-la.com/athreep</p> <p><他分野に求めるニーズ></p> <p>AIによる顧客ニーズ探索</p>		
キーワード	オープンイノベーション・健康関連サービス・アプリ・取引コスト	